



ららばい、通信

Lullaby News

2023年
新春号

令和五年
あけまして
おめでとーうございます



画／大野隆司

【目次】

- いつ 何時 何があるか 健康であることの難しさ 西館 好子 …1
- 特別寄稿
「中国伝統医学の智恵で
コロナ後遺症に挑む」 楊 秀峰 …2
- 連載
「降れ降れこ雪 わらべうた・童謡詩華抄」 尾原 昭夫 …4
- 連載 子ども虐待は、今
「フランスの児童保護」 川崎 二三彦 …8
- さようなら青木新門さん 西館 好子 …10

- 連載 「太極 この道を行く」 帯津 良一 …12
- 日本子守唄紀行
「ひとりでさびし」（宮城県栗原市） 鵜野 祐介 …14
- 連載 直島便り
「帰ってきた黄色いかぼちゃ」 山根 光恵 …16
- COLUMN 『老少子化を考える』 小山 幸雄 …17
- 活動報告 …17
- 寄付者名簿

2023年1月発行



いつ 何時 何があるか 健康であることの難しさ

西館 好子

私の82歳という年齢は動かしようがありません。
胡麻化しきれない年です。死んだとしても、惜しいとか、まだまだ、などお世辞にも言えない頃合いの年齢です。虫歯や入れ歯はありませんが高血圧です。今まで大病をしましたが、といえば、なかなかどうして病身ではありませんが、大病も大けがも何度が経験しています。
既に14年も前になります。風邪が治りきれない日が続きました。夜になると咳が止まりません。その夜も激しい咳込みがあり、のどの奥が痛く、痰を出すと少し血が混じっていました。
抗生物質をのみ休みました。
朝、口の奥から、生ぬるい血の匂いがしたと思つた瞬間、突然喀血という事態が起きました。
大きなタオルを口に当てて押さえたが、喀血は止まりません。
動転とはまさにこの事、自分に何が起きたのか、痛みも苦しみも超えて、まさに夢の中にいる気持ちでした。
病院に担ぎ込まれたときは、人はこうして死ぬのだろうか、などちらりと頭をよぎりましたが、治らないときはどうなるのだろうか、といった明日への仕事への不安の方が大きかったように思います。
手際よく病室に運ばれ、その瞬間、止血剤の点滴と酸素マスクが装備されました。
私は知りませんでした、入り口に「入室禁止」が張り出されたようで、まさに隔離病棟に入れられたのです。
「結核」「いずれか内臓からの出血」

「癌」等が疑われたのです。結核であれば菌がばらまかれる恐れもあったのでしょう。数日は検査と薬漬けでした。肺炎も併発していたのです。
結果が出たのは一週間後、思いもかけず、膠原病が発見されました。
「皮膚筋炎」というウイルスで、これはなかなかしぶとくて、肺炎を引き起こしやすいく種のものでした。ウイルス名は「マツク」、以後、今も私の生涯の伴走者となりました。
数か月後には治療薬のせいで肝臓に支障をきたし、思い切つて薬をやめ、定期健診と水素吸引で現在に至っています。コロナになつたら、まず助からないという注意を受けています。
今つは大腿骨骨折をしました。
講演で黒部に行き、ホテルの階段で滑りました。
レストランのトレーを持ったまま腰からズボンと滑つたのです。
その瞬間から足はぶらぶら、前には動きませんが、後ろにはまったく1ミリも動かせません。それでも大腿骨骨折等とは露ほども思いませんでした。
街の整形外科で「手術必要です、至急大病院へ」と言われたときは、眼がくらみました。けがの大きさを、寝たきりになれば「ボケる」という定説がよぎり、その重大性が胸を押しつぶしました。
実際入院して分かつた事ですが、手術までには、様々の検査にほぼ一週間ほどかかります。

それまではベットに寝たきりの状態です。手術自体は背中に麻酔を打たれた瞬間から記憶はありません。五センチ五ミリの金具が装備されました。
気が付いて瞬間から、翌朝には自力で歩かされる訓練がはじまりました。
午後には談話室に患者たちが集まるのですが、同じに入院した患者さんの、既に一週間の間に認知となつてゐるのを見て、ぞつとしました。
「ああなつては大変」と勤めて歩くようしました。
当たり前に歩いてゐたことがなんと大変なことか、と思ひ、これからは決して転ばないようにしなければと覚悟しました。
「とても骨密度はいいし、大丈夫、なおりますよ」と医者の言つた言葉に子どものころ、疎開先で小魚ばかり食べていたことが、今自分の骨を救つてくれたのではないかと、痛感もしています。如何に幼児期の食が大切な、高齢になつて身に染みたという事でしょうか。
老いば病はつきものです。
いつ何時どんな形で病を背負い込むか、誰にも予測は出来ません。
長い闘病もあるかもしれせん。少なくとも、隔離された中において、病床が生きる場所になるとしたら、どう覚悟して日常を過ごせばいいのか考えさせられました。
まずは、「病も人生だ」と構えるところから始めようと思います。病が人生からの隔離であつてはならないと自覚しなければならぬと毎日自分に言い聞かせて今日も生きています。



令和5年 ららばい通信 新春号を お手元にお届けさせていただきます。

根つからの都会っ子の私は、まして人の顔しか目に入らないような下町の浅草というところに育つた私が、昨年の春から女性支援事業に関わる下仁田通いに東京と群馬の往復を頻繁にするようになりました。関越道を車で二時間、埼玉を縦走し、左右に山が見え始めると、もうそれだけで遠く離れたところに来たようで淋しくなりませんでした。

反対に帰りは町のビルの明かりが見え始めると、ほつとして急に元氣になります。

実は今も根本的にはなかなか人のいないところにはなじめません。

けれど少しずつ変わってきたのは、下仁田に親しい方たちができ、その方たちにお会いできるという喜びが行く度に淋しさを遠ざけていくように感じるようになりました。

なるほど住めば都とはよく言つたものだと思えてきました。ことは本格的に下仁田で活動しなくてはなりません。

とても淋しいなどといつてはいられませんが、春夏秋冬、メリハリのある季節を存分に味わつて、懐かしい友達や仲間をたくさん作つて、毎日に生きがいのある暮らしを想像していきたいと自分に期待しています。折がありましたら、是非皆さまいらしてください。

新緑の見事さと秋の紅葉は絶景です。一度ご覧あれ、お勧めいたします。

日本ららばい協会

理事長 西館好子

忘れられる母の唄

日本ららばい協会

理事長

西館好子

おかあさんの匂いは どんな どんな匂い
—— 朝はかまどの けむりの匂い
昼はおべんとの おかずの匂い
晩はかすかな おふろの匂い

おかあさんの匂いは どんな どんな匂い
—— 春はうれしい ちょうじの匂い
秋はやさしい もくせい匂い
冬はひなたの ふとんの匂い

おかあさんの匂い どんな どんな匂い
—— ひざにだかれりゃ くず湯の匂い
おはなしなされば おも湯の匂い
うたをうたえば れもんの匂い

おかあさんの匂いは どんな どんな匂い
—— ねいさんかいもうとに よくにた匂い
おまどに いろりに ただよう匂い
わかつた わたしの うちの匂い

サトウ・ハチローさんの詩集「おかあさん」をまた読み返しています。やはり涙がこぼれます。家族の想い出はいいことばかりではありません。だから、笑顔と 涙が交互にやってくるようです。母の歌が消えてはなりません。母を思う事は人生の修行の集大成なのですから。



中国伝統医学の智恵で コロナ後遺症に挑む

楊 秀峰

新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めて早3年、感染拡大と縮小の波を何度も繰り返し、人々には心身の疲れが溜まっています。国内の累積陽性者数は12月なかばで2630万人を超えました。

子供の頃から中国伝統医学の世界に浸り、成人して北京市の病院に勤務し、来日後は（気がつけば、中国で暮らした年数より日本で過ごした時間の方が長くなっていました！）氣功や推拿、薬膳をご指導している私も、医療従事者や薬品会社の奮闘を見聞きしながら、新型感染症の予防や改善に役立つ方法を伝え続けています。

昨年ですが、症状がいったん収まった後も長く続くコロナ後遺症についての報道を見た折に、「ブレインフォグ（脳の霧）」という言葉が目に留まりました。脳に霧がかかったようにぼんやりして、記憶力や集中力が低下し、不安や抑うつなどが見られるとありました。

「高齢化先進国」の日本では大きな問題になる

のではと思つてさらに調べると、案の定、コロナ後遺症はアルツハイマー病やパーキンソン病等の神経変性疾患の症状に似ていること、感染者の脳の免疫系を担う細胞がアルツハイマー病と似た病理変化を起こしていること等を記述した記事や論文がいくつも発表されていることがわかりました。

そこで、この小文では、コロナ後遺症対策として、さらには認知症予防策、老化防止策としても役立つとして教室でご指導している方法をいくつか挙げたいと思います。

〔氣功〕

中国医学では、西洋医学の概念にはない「氣」の流通を重視します。と言つてもとらえどころがないので、教室では便宜上、「氣」とは心身の情報をも伝えるエネルギーと説明することがあります。氣功は氣の流通を促す古来の心身訓練法で、ここでは私の家に伝えられてきた「宮廷21式呼吸法」の中の「二龍戯珠」をご紹介します。

■動作説明①両足を肩幅に開いて立った準備姿勢から、両腕を掌を下向きに肩の高さに上げる。②両手は横向きのまま掌を前に向け、両腕を前に伸ばし、顔の幅ぐらいい近づける。③肘を曲げて両手を両目に近づけ（目に氣を入れるような意識を持つ）、顔から少し離れたまま頭上に上げる。動作に慣れたらこまごまを吸う息で行う。④静かに息を吐き、ゆっくりと左足に重心を移しながら体を左斜め前に傾け、同時に両手を頭の後ろから腰まで下ろす。⑤ゆっくりと上体を起こして重心を両足の中間に戻しながら両手を左右に下ろす。同様の動作を右側でも行い、これを1セットとして数セット繰り返す。慣れないうちは自然呼吸でOK（楊秀峰宮廷氣功養生院）のホームページに詳しい動作説明をイラストと共に掲載していますので（参照下さい）。

この動作は膀胱経という経絡（氣の通路）を活性化しますが、膀胱だけに限るわけではなく、経絡上に五臓六腑に直結するだいいじなツボが並んでいます。中国医学では、五臓六腑の氣血が精を作り、精が髓を生み、髓が脳を満たし、臟腑が調和してはじめて脳は嗅覚などの感覚、記憶、思考などをうまく管理できると考えます（難しい用語でごめんなさい）。それ故、膀胱経への働きかけは脳機能の維持につながるというわけです。

〔推拿〕（日本と言う按摩プラス指圧です）

簡単な指圧法をひとつだけ挙げます。

耳たぶ裏の陥凹部にある「翳風」というツボを、

ゆっくりと息を吸いながらやさしさを伴う痛いような感覚が現れるまでじわじわと押し、息を吐きながらゆっくり力を抜きます。これを数回繰り返します。

翳風への押圧は脳への血液供給を改善し、脳の疲れを取って安眠をもたらします。推拿、鍼灸の分野で、このツボは他に耳鳴り、顎関節症、ドライマウス、顔面神経麻痺等々の治療に用います。付け加えますと、くしや指先でよく髪をとかすことも頭部にたくさんあるツボを刺激することになります。

〔薬膳〕

人の身体は飲食したもので作られ、何を摂取するかに大きな影響を受けます。「医食同源」「薬食同源」の言葉がある所以です。

日本の民間薬にも使われてきた虎杖（この2文字の漢字はその見かけから、読み方は「痛みを取る」効能に由来するというのが通説です）を利用した炒め物はいかがでしょうか。

■材料：虎杖の根茎200g、にんにく2個、鶏肉100g、片栗粉小さじ1、しょうゆ大さじ2、サラダ油適量、ゴマ油小さじ1

■作り方①虎杖を湯通ししてさがきにする。②鶏肉は細く切り、片栗粉、しょうゆと混ぜておく。にんにくは薄切りにする。③鍋を熱してサラダ油を入れ、鶏肉を炒めていったん取り出す。④同じ鍋でにんにくを熱し、香りが出たら虎杖を入れて3分炒め、鶏肉とごま油を一緒にして出来上がり。

虎杖の根茎を天日乾燥させたものは虎杖根という生薬になります。漢方の分野では、抗菌・抗ウイルス、抗炎症、止咳化痰、止痛、抗酸化、抗腫瘍などの幅広い薬理効果があることが知られ、近年ではエイズの予防、アルツハイマー病の改善の効果も期待されています。

もう一品、簡単にできる「ナッツと黒ゴマ・ラテ」のご紹介。

■材料：ピーナッツ10個、くるみ1個、黒ゴマ小さじ1、牛乳300cc、はちみつ大さじ1

■作り方：はちみつを除く食材をミキサーにかけ、飲む時にはちみつを加える。

「長生果」の異名を持つピーナッツは五大栄養素をバランス良く含みます。含有物質のうち、神経伝達物質の材料となって記憶や認知機能を助けるリンの一種レシチン、アルツハイマー病を招く細胞の酸化を防ぐビタミンE、コレステロール値を下げ、血栓を防ぐオレイン酸・リノール酸をここでは強調したいですね。やはり「長寿果」「万歳子」と呼ばれるくるみは何か似ていませんか。そう、脳です。薬膳では「以形補形」、すなわち似た形のもので補うという考え方があります。にわかには信じがたいかもしれませんが、くるみも不飽和脂肪酸やビタミンE等の作用で、細胞の老化を防ぎ、記憶力を維持します。黒ゴマや完全食品のひとつである牛乳の滋養効果は改めて挙げるまでもありませんね。

新たな感染症が流行するとまず新薬の開発等に目に向くのはやむを得ませんが、中国医学で

よく説くところでは、薬は病毒を消す脇役であり、主役はその人自身の免疫力で、身体内外の環境がバランスを取り戻すことが肝要とされます。この小文では、コロナ後遺症への関心をきっかけに対処法、予防法を数例挙げましたが、その恩恵はコロナ対策に留まりません。様々な病を遠ざけるために中国医学の智恵を詰め込んだ養生法の沃野に踏み入って下さる方が一人でも増えればそれ以上の喜びはありません。



【楊 秀峰】略歴

中国・北京市出身。清朝末期に宮廷で養生法等を指導していた祖母の養育を受け、伝統医学を学ぶ。長じて西洋医学も併修し、北京市内の病院に勤務した後、1988年来日。帯津三敬病院で約20年氣功を指導。自身の教室「楊秀峰宮廷氣功養生院」（東京・四谷）他で、家伝の「宮廷21式呼吸法」他の氣功、推拿、薬膳等を長年教授。『宮廷養生法』『よく効く「食べ合わせ」の極意』等の著書がある。

降れ降れこ雪

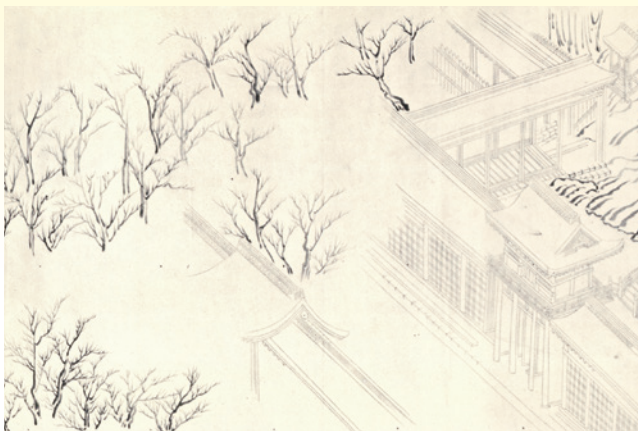
わらべうた・童謡詩華抄

わらべうた研究家 尾原昭夫

賢帝堀河天皇と讃岐典侍

ここにまさに感動をもたらす愛と奉仕のすぐれた日記文学がある。『讃岐典侍日記』。作者は平安後期の女官で堀河天皇に仕えた讃岐典侍、本名藤原長子。その名は、父が讃岐入道と称された歌人藤原顕綱であり、官命が「典侍」、つまり「ないしのすけ」略して「すけ」というところからくる。

堀河天皇は鳥羽天皇の父であり、かの後白河法皇の祖父にあたる。「末代の賢王」と称されるほどの人格・才能ともにすぐれた天皇は、管絃、殊に笛の達人であった。しかし、まことに不運なことに病弱で、二十九歳にして崩御される。日記はその生々しい闘病と看護のさまを上巻に、わずか五歳の幼帝、鳥羽天皇に仕える身となって、亡き帝の忘れ難い想い出を涙ながらにつづるのが下巻である。そこにわらべうたの最古の記録とされる「降れ降れこ雪」が登場する。



京賀茂社の景
年中行事絵巻より 平安後期

降れ降れこ雪

朔日の日の夕さりぞ参り着きて、陣入るるより、昔思ひ出でられてかきぞくらさるる。局に行き着きて見れば、こと所にわたらせたまひたる心地して、その夜は何となく明けぬ。

つとめて、起きて見れば、雪、いみじく降りたり。今もうち散る。御前を見れば、べちにたがひたることなき心地して、おはしますらん有様、ことごとくに思ひなされてゐたるほどに、

「降れ、降れ、こ雪」と、いはけなき御けはひにておほせらるる、聞こゆる。こはたそ、たが子にかと思ふほどに、まことにさぞかし。思ふに、あさましう、これを主とうち頼みまゐらせてさぶらはんずるか、たのもしげなきぞ、あはれなる。

『讃岐典侍日記』石井文夫校注・訳より（新編日本古典文学全集26）小学館
〔嘉永三年（一一〇八）改元後天仁元年〕正月二日の条

〔現代語訳〕（石井文夫訳）

元日の日の夕方に皇居に参り着いて、（御門の）陣に車を引き入れると同時に、昔が思い出されて、おのずと心を暗くする。局に行き着いて様子を見ると、かつてのような、

見付けたるぞあはれなる。

笛のねのおされし壁の跡みれば
過ぎにしことは夢とおぼゆる

悲しくて袖を顔に押しあつるを、あやしげに御覧ずれば、心得させまゐらせじとて、さりげなくもてなしつつ、「あくびをせられて、かく目に涙の浮きたる」と申せば、「皆知りてさぶらふ」と仰せらるるに、あはれにもかたじけなくもおぼえさせたまへば、「いかに知らせたまへるぞ」と申せば、「ほ文字のリ文字のこと、思ひいでたるなめり」と仰せらるるは、「堀川院の御ことと、よく心得させたまへる」と思ふもうつくしくて、あはれも覚めぬる心地してぞ笑まるる。

『讃岐典侍日記』森本元子全訳注より（講談社学術文庫）

降れ降れこ雪伝承の跡

幼い鳥羽天皇がおうたいになった「降れ降れこ雪」からおよそ二百年を経過した鎌倉時代後期のころ、同じ京都の人、吉田兼好は『徒然草』でこのわらべうたについてふれる。

降れふれ粉雪 たんまれこ雪
垣や木の股に

すでに当時これを「丹波のこ雪」と誤ってうたっていたというのである。我が国初のわらべうた考証である。以下各時代の諸書から関連記事を拾ってみよう。

堀河天皇がほかの所にお出掛けになっておられる心持がして、その夜は何ということもなく明けた。

翌朝、起きて外を見ると、雪がたいそう降り積っていた。今も降り乱れている。天皇のおいでになる方を見ると、堀河天皇のご在世の時と別に変ったことのない感じがして、今は鳥羽天皇がおいでになるとい、その有様が、関係のない別のことに、何となく思ひなされているうちに、「降れ、降れ、粉雪」と、あどけないご気配で仰せになるのが、聞こえてくる。これは誰かしら、誰の子なのかしら、と思っている、ほんとうに鳥羽天皇ご自身なのであった。思えば、思ってもみなかったことで、このお方を主君とお頼み申しあげておそばにお仕えしようというのかと、頼りになりそうにもないのが、悲しく思われる。

壁に張られた笛譜の跡

笛の名手であられた堀河天皇は、雅楽の笛の譜を覚えるために日夜ご努力を重ねられ、御所の壁に笛譜を張り付けなどしておいでになったことが日記に記されていて、私なども日本雅楽会の教室で龍笛を習い、正月の初稽古に暗譜して演奏した経験から、その箇所などは時空を超えて身に迫る想いを禁じ得ない。作者の涙を、幼いながらに帝が「ほの字にりの字」といったまされた言葉で察するところなどもじつに感銘深くて胸を打たれる。

御前におはしまして、「われいだきて、障子の絵見せよ」と仰せらるれば、よろづ覚むる心地すれど、朝餉の御障子の絵、御覽ぜさせありくに、夜御殿の壁に、明けくれ目馴れておぼえんとおぼしたりし楽を書きて、押しつけさせたまへりし笛の譜の、押されたる跡の、壁にあるを

京風俗十二カ月図巻より(部分)

伝狩野吉信画 近世初期 近世風俗図巻 毎日新聞社



雪の柳橋 小原古邨画
(日本の名画808)

「降れ 〱 こ雪、たんばのこ雪」といふ事、米搗きふるひたるに似れば、粉雪といふ。「たまれこ雪」と言ふべきを誤りて、「たんばの」とは言ふ也。「垣や木の股に」と歌ふべし」と、ある物知り申き。昔より言ひけること「に」や。鳥羽院幼くおはしまして、雪の降るに、かく仰られけるよし、讃岐典侍が日記に書きたり。

『徒然草』久保田淳校注より(新日本古典文学大系39岩波書店)

第百八十一段

降れ 〱 雪よ
宵に通ひし道の見ゆるに

〈訳・校注〉降れ降れ雪よ。宵に通ってきた道の足跡が見えるから。子供達の雪の唱え言「降れふれこ雪」を恋の世界に取り込んだ。

『閑吟集』土井洋・真鍋昌弘校注より
(新日本文学大系56岩波書店)



これは冬、雪あられのふる頃云。『徒然草』に、
ふれ 〱 こ雪、たんばのこ雪。

大山やまの、雪ころび 〱 や。

これは雪をこかして云詞。

『筆のかす』野間義学著 享保七年(七三)成。写本『古今童謡』より
(『古今童謡を読む』尾原昭夫・大嶋陽一・酒井董美。二〇一六 今井印刷)

白秋の「雪こんこん」

雪こんこんのお話。雪こんこんは、何処の国でもうたひます。ほんとに、あの紫がかった薄墨いろの空から、こんこんと雪が湧いて降って来るのはうれしいものです。それも降りだしたなど、お窓からでも眺めてゐる時分がなんとも云へません。お窓の格子につかまつて。

ふれふれ、小雪。たまれ、小雪。
垣や木のまたに。

これはずっと昔、鳥羽天皇のお小ひさい時にお歌ひになったものださうです。雪のうたでは一番古いもののやうです。それが後に、「ふれふれ小雪、丹波のこ雪……」と、なまつて歌ふやうになったと云ひます。

雪ばな。ちる花。空に虫が湧くわな。
扇腰にさいて、きりりと舞ひましょ。

京都ではかう歌ひます。あのちらちら粉雪を、白い虫

折ふし、桜花にはかに、はら 〱 と、落散みだれければ、貫之が歌を、ふと、おほし召出して。いかにも、大文字にあそばしける。桜ちる木のした風はさむからで空にしられぬ雪ぞふりける是はいかに、とのたまへば、彼僧、いや、是もいまだ耳なれず候、と申す所へ、又、さくら花、風にちらされ、さつ 〱 と、みだれければ、そのまゝ、あそばしけるは、

雪やこんこ あられやこんこ

お寺の柿の木に ふりやつもれ こんこ

『休はなし』江戸前期、寛文八年(六六八)より

(『仮名草子集成』東京堂出版)



雪ぶつけ 雪ころがし
西川祐信画 絵本大和童 江戸中期



雪ぶつけ 雪ころがし 雪だるま 氷かつぎ
西川祐信画 絵本西川東童 江戸中期

雪やこんこ、あられやこんこ、
みやまの奥の、たびらこやこんこ 〱

が湧くと見たのは、かはいいではありませんか。雪の一つ一つが生きてゐるやうではありませんか。(以下略)

『お話・日本の童謡』北原白秋より (一九四四 アルス刊)

〔降れ降れの伝承例〕

ふれ、ふれ、こんこ、空みりや虫虫、空みりや虫よ、
下みりや綿よ。(岐阜)

降る、降る、雪が、空見りや虫よ、屋根見りや綿よ、
下見りや雪よ。

△類歌▽

ふれふれ、雪よ。 ふれふれ、こんこ。(岐阜)

雪ふりこんこ、積もれ積もれ、お寺の柿の木に。(愛知)

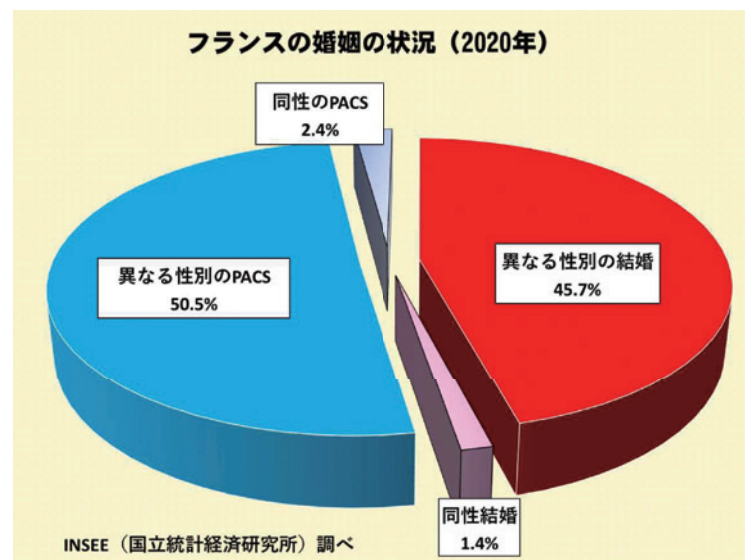
雪よふれふれ、正月ござれ。(兵庫)

雪や降れ降れ、正月どがござる、杵の先に餅つけて、
かぶりかぶりござる。(兵庫)

雪やこんこん、霰やこんこん、
お寺の松の木に「ばい積もり、こんこん。(京都)

雪やこんこん、霰やこんこん降つといで、
丹波のおばはん降つといで、雪やこんこん、
霰やこんこん、丹波の奥から降つといで。(大阪)

『日本伝承童謡集成』北原白秋より (一九四七 国書刊行会 三省堂)



フランスの家族

さて、フランスの児童保護の実情を考える前に、フランスの家族のあり方を簡単に見ておきたい。まず驚かされたのが、フランスの家族制度である。フランスでは、第2次大戦後の1965年まで、既婚女性が夫の許可なく仕事することはできず、銀行口座を開くこともできなかった。親権についても、1970年になってようやく「家長」という概念をなくして父母がともに親権を行使できるようになったという。

フランスの子ども虐待対応

こうした家族のあり方を前提としつつ、フランスにおける子ども虐待への対応、児童保護について、日本とも比較しながら概観してみたい。本稿の冒頭で、非行少年に対しては司法の関与が強いことを述べたけれど、児童保護に関しても、日本とは対照的な様子が見えてくる。日本では、戦後直後に児童福祉法が制定され、当時から要保護児童（保護者のない児童又は保護者に監護させることが不適当であると認められる児童）を発見した者に通告の義務を課していたが、虐待問題が社会の関心を呼ぶようになった2000年、要保護児童のうち、児童虐待を受けた（と思われる）児童への対応

「なんだ、日本と比べて遅れているじゃないか」そんな感想を持ったのだけれど、改革は急ピッチで進む。特筆すべき制度と思われるものの一つが、PACS（連帯市民協約）だ。PACSは、もともと法律上の結婚が不可能だった同性同士を念頭に1999年に法制化されたものだが、「性別に関係なく、成年に達した二人の個人の間で、安定した持続的共同生活を営むために交わされる契約」である。同性カップルに限らず全ての非婚カップルのための制度で、日本で広まっている同性に限定したパートナーシップ制度とは異なる。法的にも結婚と同様に保護されるものも多く、今では、PACSが結婚を上回る結果となっており（図）、2013年には同性結婚も法制化されている。

に特化した児童虐待防止法が制定され、今日までその取り組みが強化されてきた。ところがフランスでは、1989年に児童保護法を制定して児童虐待への対応策を強化していたところ、2007年の児童保護改革法では、「転じて「児童虐待」という言葉を用いなくなり、広く要保護児童へ対応するように舵を切ったという。

「だったら、日本とあべこべじゃないか」思わずそんな言葉をつぶやいたのだけれど、考えさせられることがあった。日本では、虐待が疑われると、48時間以内の安全確認などが求められる、児童相談所が必要と判断すれば、保護者の同意がなくても職権で一時保護する。そのため、保護者が一時保護に反発して児童相談所と対立したり、支援機関や近隣などから監視されていないかを気にしてストレスを高めることも珍しくない。一方、フランスでは、虐待に限らず、発達の遅れがあるとか、学校を休みがち、あるいは移民として入国し、子育て情報の不足に悩んでいるなども通告の対象となる。もちろん、虐待が疑われて子どもを保護しなければならぬ場合もあるが、児童福祉機関が保護するのは保護者の同意がある場合に限り、それ以外は司法の決定で保護が行われる。したがって、日本のように、児童相談所と保護者が保護を巡って対立することは考えにくい。社会のあり方も、児童虐待への取り組みの歴史も異なるとはいえ、改めて日本における児童虐待問題の取り組みを客観的に眺め、振り返る恰好の機会になったのであった。

映画「太陽のめざめ」から



「太陽のめざめ」は、2016年に日本で公開された映画だ。カトリーヌ・ドヌーヴ扮する少年担当判事は、複雑な家庭背景を持つ非行少年の「児童教育支援」を決定するが、少年は次々に問題を起こし、判事はそのたびに、彼を執務室に呼んで面談する。その様子は、過去に私が経験した児童相談所の児童福祉司のようにも見えた。仕事柄、私は日本の少年審判にも立ち会った経験があるが、日仏

いずれの裁判官も、子どものことを真剣に考えている点は共通する。ただし、そのしくみには大きな違いがあった。

日本でも、裁判官は非行少年に対して種々の決定を言い渡すが、以後の実務に関与することは殆どない。ところがフランスでは、判事が何らかの決定をした場合、その後の状況について定期的に報告を受け、当該措置を継続するのか最終的な決定にかかったことも、自ら決めていく。決定に最後まで責任を負うのだから、面談が繰り返されるのも必然なのだろう。

オンラインによるフランス視察

この映画、実は、私も参加した資生堂こども財団による児童福祉施設職員の海外視察の一環として鑑賞した。視察先がフランスだったのである。ただし、当時は日仏とも新型コロナウイルス感染症が爆発していた時期。現地に赴くことができず、すべてオンラインとなってしまう。8時

新連載 03

子ども虐待は、今

フランスの児童保護

子どもの虹情報研修センター
川崎 二三彦



いずれの機関も、快く応じてくれた



子どもが暮らす施設内を紹介していただく

間の時差があるため、私たちは夜間に視察先とやり取りしたのだが、熱を帯びるとしばしば深夜に及ぶこともあった。とはいえ、オンラインの特徴を生かすことで、視察先は約20か所にも及び、さまざまな刺激を受けたのであった。

さようなら 青木新門さん

2008年3月3日、当時日本子守唄協会（現日本ららばい協会）の初代会長でいらした詩人の松永伍一氏がパーキンソン病で他界されました。



旅をたずねる寛良温泉岩湯新

その一か月後、協会での偲ぶ会の打ち合わせで協会におみえになったのが青木新門さんとの最初の出会いです。

当時、青木新門さんは富山の葬儀場オークスの専務をなさっていて、当協会副会長のセレモアつくば辻社長のお知り合いでいらした関係から、偲ぶ会の打ち合わせにご協力し参加下さったのです。そのご縁がきっかけで新門先生とは亡くなる2022年までのつきあいです。

2022年青木新門さんがお亡くなりになりました。知り合ってから14年がたち 思い出はきりがありません。多くの旅をご一緒し晩年は「新門塾」をたちあげました。「死と仏教を考える」という趣旨で一か月一回の集りでした。

私事ですが、井上ひさしさんが亡くなり、その

絶筆が私の手もとに届きました。もはや、肺がん末期の井上ひさしさんの一文は解説しにくいものでした。

すへ〇の〇なるものに
すべ〇が見〇〇〇〇とな〇
なにもかもはつき〇〇〇〇〇〇に
すべての〇の〇〇〇〇
〇にくつきり
〇〇にまいます

新門塾の講義はこの絶筆の解説という日がありました。

すべての無なるものに
すべてが見えるものとなる
なにもかもはつきりせんめいに
すべてのものが美しく
げにくつきり
そこにまいます

青木さんは井上さんは悟ってあの世に旅だったという解釈をなさったのです。この回では死者を読み取るというテーマを私たちに与えてくれました。何しろ、納棺夫として2000人という数の旅立ちに立ち会った人ですから、いつもテーマは生死にかかわるものでした。

ある時、山形の小野川温泉に「霊を見つけよう」と旅しました。霊を見たという霊能者は青木さんを見て顔をしかめ、「この人にうじゃうじゃ霊がついている、早く塩をまいてまいて」など言わ

れました。青木さんは「これは守護神だ」と怒鳴り返していました。

もう一つ思い出は、病気に關してです。亡くなる五年前から体は相当痛んでいたと今にして思えば確信持てます。

根が頑丈な大きな体の方でしたから当人もまったく気にも留めていませんでした。

一度目は富山で顔面蒼白になりよろよろした時でした。お酒は強い方でしたから飲みすぎと思ひ、しばし町のビルの非常階段で一休みして帰りましたが、以後旅先で、同じように何度となく倒れることがありました。

とどめは新宿で画家の木下晋さん、亡き詩人の長谷川劉生さんと一緒に飲んでいた時、トイレに立った先生が一向に戻ってきません。木下さんがみにいきました。そこに全身汗とは思えない水を浴びたような先生を発見したのです。この時は至急救急車をよび、飯田橋の通信病院に運ばれました。結局そこで一晩泊まりました。

悲しいことに、青木さんと一緒にするとき私たちは全部支払い先生持ちと決めていましたから、新宿の支払いの時どうしようか、と木下さんと顔を見合わせてしまいました。咄嗟に先生のお財布を出しました。その時の先生のお財布には一万円札が束になって入っていて、あとで、あの時100万くらいぬいておけばよかったなどと笑いの種にしましたが今となれば懐かしいばかりです。

しかし、あのあたりから、体と耳は確実に悪かったのだと思います。酒量も落ちましたし、落ち込みも激しくなっていたように思います。

富山の自宅の隣に茶室付きの家を買い、あまり東京に上京することはありませんでした。「念仏道場」をスマホで開設、仏教者でもない青木先生がするのは反対と余計なことを言ってしまったばかりに、親しいと思っていたのに念仏も返さないとお怒りになった投稿が私にあり、以後疎遠になってしまった数か月後、日赤病院に通っていると心細い声で電話があつたのが最後でした。

先日帯津良一先生と飲んだ折、帯津先生が核心をついたことをおっしゃいました。

「詩人、作家、仏教者、青木さんはいずれにも属さない、しかし、最も人間であった」と。

私は青木さんのお父様は黒部ダム建設にかかわった技師と伺いました。

緻密で計算が行き届き、なお、建設的な考えをもつ性格は父上から受け継いだのでは。

ずっと喧嘩友達であり、それも人間らしい付き合いをさせていただきました。

インド旅行の帰り、同行した浄土宗の僧侶と私に向かい、「もう二度とあなた方に会うことは無いでしょう」と絶交宣言をしたはずが、何日もしないうちに、比叡山に行こうと誘ってくれたこと、でも最澄に対しての意見が割れると、すぐ一人で下山してしまう。

こんなことが続きました。多くの知友を紹介して下さり、日本各地を歩き、秘境やへき地も一緒にさせていただきました。

懐かしい日々をこれからひとつづつ思い出しながら、老いの財産にしていきたいと思ひます。ご冥福を心から祈るばかりです。



新年のうた



大年 小年 （年越しのうた）

大年 小年 食いたいな
とぼけた婆様にや会いともない
鍛冶屋のつつ子
ろうそく一本たもれ
（または年の初めの福ん馬 ドイドイ）

年の初めのうた （正月のうた）

年の始めの 例として
終なき世の めでたさを
松竹たてて 門ごとに
祝う今日こそ 楽しけれ
初日のひかり さしいでて
四方に輝く 今朝のそら
君がみかげに 比えつつ
仰ぎ見るこそ 尊とけれ

灯がロウソクの時代、しょうがつにロウソクをもらいあるいた。それをともし若い者は小屋の中で夜をあかした。又は藁の馬を一軒軒各家に投げ込んだ。正月の行事。

大晦日は年の最後の日、そして、新しい年のはじまりの日です。

昔は大晦日の午前中までに用事を済ませ、夕方までに正月の準備をし、年を締めくくる除夜の鐘を待ちます。

百八つは人間の煩悩の数、百七つでは年内に残り一つは年のはじまりにつきます。

そばは健康を祝いとか、夫婦仲よくなどと言われますが、本当は大阪の金銀細工師が一年飛び散った金銀を、大晦日に集めるため、そば粉を練ってダンゴをつくりそれで床を拭いたところから、「蕎麦は金を集める」ということで、新年からお金が集まるよう縁起かつぎから、年越しのそばを食べたということです。

今はそんなことも忘れ、「第九」歡喜の歌が大晦日の季語みたいです。

増刊

帯津良一

太極 この道を行く



朝の太極拳教室を開こうとしたのですが、早朝は家庭の仕事があるので無理ですよ、と家内に断わられてしまったのです。

そこで、また窮余の一策、私自身が担当することにしたのです。もちろん太極拳はまったく

経験がありません。ただ、学生時代に空手部にいましたので、家内の演ずる太極拳を端で見ていて、その一つひとつの動作の意味は理解していたのです。そこで、日曜日の午後4時間ほど、院内の道場で家内から特訓を受けました。

そして、翌朝から指導を開始したのですからあきれてしまいます。ただ、それだけ中西医结合のがん治療にのめり込んでいたということでお許しいただきたいと思っています。まもなく楊名時先生から晴れて師範をいただいた家内が院内の道場で昇段審査を始めました。そこで、私に

「お父さんも受けませんか？」

と来たものです。妙に素直になって受けることにしました。やがて人並に準師範になったところで、



院時代に遡ります。1970年代後半のことでした。当時すでに楊名時太極拳に手を染めていた家内の稚子の誘いで、当時の蔵前の国技館で開かれた中国武術団の表演会に出向いたのです。

会場で楊名時先生と偶然お会いしました。家内の紹介で、ほんの二言三言ご挨拶しただけなのに、古い先輩に久しぶりにお会いしたような親しさを感じたものです。そして、中西医结合によるがん治療を旗印にかかげた病院を郷里の川越市に開いたのが1982年11月。氣功道場のメニューは白隠さんの流れを汲む調和道丹田呼吸法、八光流柔術、八段錦の和製の3点セット。

しかし患者さんの理解が得られず、道場はいつも閑古鳥が鳴いています。そこで窮余の一策。楊名時先生のお許しを得て家内に太極拳の健康道場を開かせたのです。これは当たりました。あつという間に道場は満員です。この勢いに背中を押されて、入院患者さんを対象にした早

「手術をしたほうが、よいだろうか？」と訊かれますので、

「嵌頓の心配はなさそうですし、部位も稽古を着て帯をしめると、丁度ヘルニア門の部位に帯がかかるので、稽古中に嵌頓することもないと思いますので、手術の必要はないと思いますよ」

とお答えしたものです。

安心されたのか、先生は二度と同じ質問はされませんでした。そして、ある年の12月の初旬の夕、私が馴染の池袋の居酒屋さんで一人盃を傾けているところに病院からの電話です。

「先程、楊名時先生が都心のS病院に緊急入院されました。只今、担当のS先生からのお電話で、帯津先生からの電話をいただきたいそうです。電話番号は……」

と。すぐにS先生に電話をしました。先生は、「先生のお知り合いの太極拳の楊名時先生が入院されました。腹壁癒痕ヘルニアの嵌頓です。すぐに手術が必要であることを申し上げたいところ、手術なら川越の帯津三敬病院で受けたいと仰しゃいます。」

しかし、これから川越まで行かれるとなるとどうしても手術が2〜3時間遅れることになります。嵌頓した状態での2〜3時間は重大です……。と。不肖、私も外科医ですから、S先生の仰しやることは痛いほど、よくわかります。そこで「わかりました。お世話になります。私が、すぐに貴病院に向かいます。その旨楊名時先生にお伝えして、手術をすすめて下さい。」



帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

「私が差し上げられるのはここまでです。あの師範は楊名時先生からですからね」と来たものです。

「私は準師範で結構！師範は要りません」と済ましていたものです。

ところが、やがて、楊名時先生の側近の高弟さんたちの口を経て、先生の一人言が聞こえて来るようになってきたのです。

「帯津先生はなぜ師範を受けないのだろう」と。何回か聞かれたところで、先生のご心労になつてはいけないということで、試験を受けることにしました。

当日は、側近の高弟さんの2〜3人の方々が心配して試験場に詰めていて下さったのはおどろきました。しかも、同期の桜に、太極拳の本をたくさん出版されている海竜社の下村のぶ子社長さんがいらしていたことも光栄の至りでした。その上で、試験に合格して晴れて楊名時先生のお弟子さんになったのですから、すべて錦上添花を添うという具合でした。

師範をいただいてからというもの、先生の講演や昇段審査のお供をして地方に行くことが増えてきました。先生が講演をなさるときは前座をつとめますし、昇段審査の際は先生の横に坐つて、審査の一翼を担うわけですが、控室で稽古着に着替えながら、先生から相談を受けたことがあります。

先生は右下腹部に腹壁癒痕ヘルニアという持病をお持ちでした。終戦直後に受けた急性虫垂炎の手術に起因するものでした。私に癒痕の部位を見せて、

日本子守唄紀行

鵜野 祐介 (立命館大学教授)

第5回 「ひょうどやびっ」 (宮城県栗原市)

今年(二〇二二年)一月下旬の日曜日、宮城県石巻市震災遺構門脇小学校を訪れた。二〇一一年の東日本大震災による津波被害の痕跡に加え、東北地方の多くの被災地で発生した津波火災の痕跡を唯一残した施設とされる。この日午後二時から施設内の集会室において、「子どもの安全を考える日和幼稚園遺族有志の会」会員で、当時六歳だった長女・愛梨ちゃんを亡くされた母親の佐藤美香さんの語りを聴いた。配布されたパンフレットの文面を引用し、出来事の概要を紹介する。

二〇一一年三月一日一四時四六分、東日本大震災が発生しました。揺れが収まるとすぐに大津波警報が発令。石巻市中にサイレンの音が響きわたりました。子ども達の通う日和幼稚園は高台にあったので、保護者は皆、「幼稚園にいれば大丈夫」と信じていました。まさか大津波警報の中、園児を乗せたバスが山を下るなんて誰が思ったでしょうか。

バスは園児を降ろしながら、門脇小学校に立ち寄った。その時日和幼稚園の職員二人が駆け寄り、「園長先生がバスを幼稚園に戻せって！」そう伝えて幼稚園に戻りました。この時園児を降ろして高台に上がってくれたら未来は変わっていたはず……

高台へ避難する車で大渋滞が発生しバスは身動きがとれず、バスは高台までたつた数十メートルの場所で被災してしまいました。その後、運転手だけが幼稚園に戻るも、幼稚園の職員が子ども達を捜しに行きませんでした。幼稚園バスが被災した場所は、津波到達の一〇時間後に火災で焼き尽くされました。「ママ、助けてー」という子ども達の声は夜中まで聞こえたそうです。

三月一四日、ようやく津波が引いたもののまだ火のくすぶる中、四人の子どもの両親で、行方不明の子ども達の捜索がはじまりました。先に真っ黒に焼けた幼稚園バスが見つかりました。子ども達は真っ黒焦げで、下半身とひじから下が焼けてなくなり、海風が吹くだけでホロホロと崩

れ落ちる、我が子をぎゅっと抱きしめることもできません。発見場所は幼稚園からたったの三〇〇メートル。歩けば三分ほどの場所でした。バスにさえ乗らなければ、落とすことのなかった命。私たちはあの子達の生きたかった今日を生きています。教育現場の判断で、子どもの命が失われることはあつてはならない、ぜったいに……

佐藤さんは一つ一つの言葉をかみしめるように、ゆっくりと語られた。そして、「優しく、明るく元気な子。震災の時にも、バスの中で泣いているお友達を励まし続けていました」(同パンフより)という愛梨ちゃんに呼びかけるように、この一年あまりの間の活動のことを振り返られたが、佐藤さんにとつてあの日から時計の針は止まったままなのだ、と感じられた。私自身、この場所を何度も訪れてきたにもかかわらず、恥ずかしなからこの出来事について詳しいことは知らなかった。

この遺構からほど近いところに「日和幼稚園遺族有志の会」によって建立された「東日本大震災慰霊碑」があり、遺族の方が詠んだ詩が刻まれている。「春の足音が近づいていた頃／愛する我が子が／明日をも見れず突然旅立



つ／暗闇さまよう私の心に／亮光降り注ぎ／再びあなたと私 結ばれる／太陽の下で一緒に見た／梨の花／桜の香り／懐かしく思い出される／あなたの笑顔にまた会いたい――この詩には、亡くなった子どもたちの名前が織り込まれているという。同会の皆さんは今も精力的に活動を続けておられる。同会のHPを以下のURLから検索し、読んでみていただきたい。(ここに掲載した写真も同会のHPからの転載であることをお断りしておく。 <https://www.31hiyori.com/>)

この日の午前中、仙台市青葉区にお住まいのみやぎ民話の会顧問・小野和子さんのお宅にお邪魔した。小野さんは一九六九年以来、半世紀以上にわたって宮城県を中心に東北地方各地で民話の「採訪」をして来られ、特に東日本大震災後は、被災された方々にその体験を語っていただき、記録していただくという活動に精力的に取り組んでこられ、二〇一九年に出版された『あいたくて ききたくて 旅にでる』(PUMPUKES)は数々の賞を受賞された。そんな小野さんが今年五月に出演されたNHKの「ラジオ深夜便」の中で、「ひとりでさびし」というわらべうたを歌われた。とても印象に残っていたのでこの日、少し話を伺ってみた。

この唄は、宮城県栗原郡(現栗原市)栗駒町出身の佐藤義子さん(一九二〇年生まれ)から、小野さんが一九八九年から九一年にかけて八回にわたって採訪された際にお聴きになったもので、『みやぎ民話の会叢書第一集 みやぎのわらべうた春夏秋冬』(みやぎ民話の会、一九九一)に収められている。



ひとりで さびし／ふたりで まいりましょ／みわたす かぎり／よめなに たんぽぽ／いもとのすきな／むらさき すみれ／なのはな さいた／やさしい ちようちよ／ここへと まねぐ／とおま で おいでなさい／ひーや ふんだか／みなさか じいさん／どつとと あるけば／ばあさん よろこび／おいでな さい



同書の中で、佐藤さんはこの唄を小学校でお手玉(「ぎやぎ」と呼んでいた)をしながら歌ったと語っておられ、実際の投げ上げ方と歌詞との対応も紹介しておられるのだが、私には「ひふみよ……」の数え歌になったその歌詞の内容も、また優しく包み込むようなその旋律も、子守唄としても歌われていたように感じられた。そこで小野さんに尋ねてみたところ、「おそらく、子守唄としても歌われていたと思いますよ」とおっしゃった。

実はこの日、小野さんはご主人の四平さんを二週間ほど前に亡くされたばかりで、喪中の御身だった。以前からお約束をしていたこともあって私の訪問をご快諾下さったのだが、四平さんの遺影に手を合わせ、線香を手向けていた時、ふとこの唄の冒頭句が頭をよぎった。「ひとりでさびし ふたりでまいりましょう……」。これはもしかしたら弔い唄、亡くなったかけがえのないたましいへの呼びかけ唄なのではあるまいか。

最初に紹介した佐藤美香さんも、あの日から愛梨ちゃんのだましいとずっと一緒に歩んで来られたに違いない。この唄には「いもとのすきな むらさきすみれ」の一節があるが、偶然にも、愛梨ちゃんには妹さんがいらっしやるそうだ。

またいつか、遺族有志の会の皆さんと一緒この唄を歌う機会があればと願っている。

直島便り ②0

帰ってきた黄色いかぼちゃ



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

いつも、十一月になると、みんなとかわす言葉は同じ、「もう今年もおわり？」そう、5かいめの瀬戸内芸術祭も無事終了。コロナ過もあり、いつもの60パーセントしか来場者がなかったとの発表であったが、特に厳しい制限もない中で終了できたことは、本当に良かったと思う。

次は三年後の開催予定である。
建築家の安藤忠雄さん、ベネッセの福武会長さんが、お二人のこれまでの集大成として、新しい美術館を作る予定であると、住民への説明もあつた。コロナの事も、そのころには昔話となるようであつてほしいと切に望むところである。

今回の芸術祭の締めくくりは、なんといつてもきいろいかぼちゃが無事にもどつて、もとの位置に収まったこと。ほんとうにうれしいことであつた。

一年前、八月の台風の時、ベネッセのビーチホテルの近くの海辺での、シンボルであつたきいろいかぼちゃが、はげしい雨風とともに、波間に消えていったときは本当にショックであつた。波間に漂い、浮いたり沈んだりしているかぼちゃの様子を



ネットでもみたときのこと、今でも強烈な印象として、この目に残っている。

幸いにも、ひきあげることができて、一年後の今年の十月に、無事に修復もできたとのことで、元の位置にかえつてきた。

ちかくにすんでいることもあるが、この一年、近くに来た時、かつてかぼちゃがあつた場所が、台座だけのむなししい様子を見るにつけても、寂しいなと感じていた。

十月になって、修復されたかぼちゃが、元の位置に置かれたというのをきき、すぐにいつてみた。

近くによつておもしろ、「お帰りなさい、よかったー」と声がでた。草間彌生さんといえば、ドット柄、無数の、大小の点々、に包まれた地色のきいろいかぼちゃは、ピカピカにひかっている。

いま、エステルームから出てきたばかりのような輝きでうつくしい、
思わず、かぼちゃをぐるりとながらまわつてみた。そしてこの無数のドットはどこからかき

はじめたのだろう、そして最後のドットはどこなんでしょうと、おもった。

「無始無終」(ものごとは、始めもなく、終わりもない。はじまるまえもあり、おわつたというそのあともある。すべてはつながりあつた円、ある。というのが佛教の真理と学んだことをおもいだす。

草間さんはドットを書き始めるときは、長い瞑想の後から書き始めると自身の本にかかれていた。おそらく、どこが書き始めですか・ときいても、明確な返事はないのではないかとと思う。始めとか終わり、とかの執着をこえたものが草間さんのアートのような気がする。

そして黄色という色は、愛しい人待つ時のいろとして、表現されることが多い。「幸せの黄色いハンカチ」という、高倉健と武田鉄矢の映画が、すぐ思い浮かぶ。あの映画のラストシーンに、私はあなたの帰りを待っています。と恋人が黄色いハンカチを屋根いっばいに飾って彼の帰りを待っていたことを表現する場面があつて、とても印象に残っている。また、過去に、イラン、アメリカ大使館人質事件があり、長い間の国同士の交渉の結果、人質の解放が決まり、帰ってくる人質たちを、大統領が執務室のいすでまっつてるとき、そのよこには、黄色いハンカチが、飾つてあつたことをテレビの画面で見たことを覚えている。

世界中が、コロナという色も形もない見えない敵とたたかつた。平和で穏やかな今までの生活を心より待ちわびる気持ちの表れが、きいろいかぼちゃの帰還ではないかと思う

愛しい人の帰りを待つように首を長くして待つていた私たちの気持ちを「大丈夫」と分かってくれたような気がする。

「お帰りなさい。」「待つてたよ」

COLUMN

「少子化を考える」

小山 幸雄

23歳(自称天才プログラマー)

僕は語学の講座に通っているのですが、受験生は教養も知性もある聡明と言える女性達が多く。ほぼ皆さん独身です。

「なんで彼女たちは結婚しないのかなあ、と疑問ですが、聴いてみると、別に独身主義でもなく、結婚したい気持ちはあつても信頼できる男性はいないとの答え、結局そうなんだ「若い男たちはだらしがないんだ」と僕も納得してしまっているんですね。

高学年で能力も高いからそうなるのか、と思いましたが、それも違うようです。

確かに、若い女性たちの生き方の方は色々選択できますし、昔のように好きになつたから結婚と単純なシナリオは過去のもの、シビリアな感覚が研ぎ澄まされてきていますよ。

みんな子ども欲しいと言っていますが、その中に父親になる男の影はない。むしろ、治安の不安や子どもたちの安全や、未来への生活の設計ができないとか、コロナの心配とか、教育の劣化とか、まあ、色々考えて結婚しない、子どもを産むのも怖い、といった分析しているんですね。

絶望している面もあるかも。

平和な未来も期待できないし、あらゆる責任を取らない大人たち、年寄りかな、みんな逃げまどつているじゃないですか、政治家なんか。

本当は若者みんな結婚したがつていますよ。でも相應しい男がいない。同じに男から見れば結婚にふさわしい女もいないんです。

少子化、当たり前なんじゃないの。国はいずれ、ぶつつぶれるよね。

活動報告

■配食(毎月第二・第四木曜日)

配食を初めて二年半がすぎました。



ある日の配食

だいぶん落ち着いてきましたが、毎回いらしていたギニアの女性が子ども三人を連れて強制送還されました。来なくなつた方もいらつしますが、突然に連絡がないという時、ああ、これでは人の社会に生きて行くにはつらいだろうなあ、と思います。ご縁を繋ぐのも大切なのに。

何らかの連絡をしながらお役に立ちたいと思つていますが、悲しい現実です。又、新しい申込も増えました。これから、食に関しては大変な時期を迎えます。備蓄の食も頂いていますから、大切に保管しておくのも生活の大変な智慧になると思つています。困つていたら、自立の前を配食に頼り、子ども達の負担は軽くしてあげたいと思います。

葛飾区とその近郊の皆さま、困つたら、ご連絡ください。

■スミセイファミリーコンサート 12月3日(土)

井原の冬の空は澄んでいました。
コロナで伸び伸びになつてたコンサート、リモートでしのできましたが、観客を動員しての生の公演は三年ぶりのこと。多くの方の笑顔が見られることはやはり嬉しく心が躍ります。むろん出演者も生に子どもたちと接しお客様の前で歌うのは気分的にも違います。反応がじかに伝わってきますから。



ラストはみんなで舞台上で挨拶

可愛い井原の子供たちの声が響きます。うけて、生演奏には力が入りました。
ご当地の子守唄「中国地方の子守唄」は当地出身の上野耐之さんの原曲に山田耕作さんが曲を作り全国的に流行し「日本の子守唄の代表的な名曲です。上野氏の最後の弟子となる川口京子さんが歌い継いできたものです。高屋小学校の皆さまの合唱と川口さんの二つが舞台で披露されました。冬の歌、クリスマスの歌、ピアノ、チェロ、ヴァイオリンのトリオの心暖まる唄と演奏に、心から声援が送られました。

「中国地方の子守唄」は井原市の大舌市長はじめ皆さまが、伝統的な地域の歌として守り、広げ、子ども達の未来の市政に生かしたいと意欲を燃やしておいでです。最後は大下勲市長、実行委員会会長河合俊道氏とみんなで合唱して閉幕しました。多くの市民の皆様を送られて会場を後にしました。感謝のみ。一日でした。

応援がとうございませう

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本らばい協会への応援をよろしくお願い申し上げます。

2022年4月1日から2022年12月14日現在 五十首順

(敬称略)

大河原尚夫	北出広子	司東和光	富田富士也
大嶋孝造	北本雅司	清水睦夫	巴 稔
大野隆司	木戸由加里	神 秀俊	奈加靖子
大村文雄	木下由美子	神 秀俊	中島富志子
大山加代子	木村賢史	菅佐原道夫	永田 亨
岡本喜久穂	木村宏一	菅原芳徳	中谷比佐子
小原幸一	木村啓子	杉浦あい	長縄千鶴子
阿部輝彦	久世明子	杉野善彦	中根宏昭
阿部由里	奥山糸子	須崎晃一	永見徳代
新井紀子	長田暁二	鈴木としお	中山公子
蘭 日出哉	小田紀美子	袖山榮真	中山 隆
安藤和代	落合美知子	素野 悟	南部和彦
飯田のり子	小貫洋子	田井二郎	南部昌宏
池田正美	小野静雄	高石知江	西尾まき
池本幸一	小野武彦	高島和子	西川京子
井坂義雄	小野寺純治	高野展子	西前幸子
石川昭子	小畑晶子	高橋アキ	庭山正一郎
磯崎節子	尾原昭夫	高橋佳奈枝	則武清司・美佐子
市塚 廣	帯津良一	高橋 寛	橋爪八重子
井出存祐	小山芳郎	高橋如晴	橋野三千夫
伊藤加津子	加賀山昭	高松榮子	橋本昌・由美子
伊東信子	春日宏美	多田式江	長谷川岱潤
伊藤 守	片山雅文	田中厚子	島山美智子
今井要一	加藤和栄	田中敬子	初澤永子
白村 威	坂野美恵子	田中壮一郎	原 昭邦
内野綾子	神長倉万美子	棚澤青路	原田直之
鶴野祐介	上遠恵子	棚澤牧人	治田るり子
梅田郁子	川井徳子	田邊邦典	平沼美春
江藤昭子	川下則子	玉井祥子	平野俊興
海老沢勝二	河原みさ子	千葉 伝	廣瀬俊之
海老名香葉子	神崎邦子	沢田健一郎	福井典子
江村 清	菊池弥生	澤田 敬	福永教正
大泉 勉	木瀬公二	七字泰美	藤島寛昌
大川幸枝	北 実		藤本純雄



ご寄付の応援を お願いします！

日本らばい協会の活動は、皆様からのご寄付に支えられております。すべての子ども達が希望に満ちた未来をつかめるよう、皆様のお気持ちの託された寄付金を、様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様に小冊子「らばい通信」、イベントのご案内、また活動報告をお送りさせていただきます。どうぞ時期や金額に関わらず、年間を通してご寄付をお願い申し上げます。ご寄付への詳細は、日本らばい協会事務局までお問い合わせください。

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
(普)1090012 トクヒ)日本らばい協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真なども募集しております。

◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えください。「らばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？

◎皆様と共にらばい通信をより良いものにしていきたいと考えております。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

日本らばい協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054 東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
TEL 03-6458-0283
FAX 03-6458-0284
Eメール info@komoritajp
URL https://www.komoritajp/

らばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。